

金環食

5月21日の朝、大阪では江戸時代の282年前だったかに見られただけという。バカなことを言う。

マスコミの記憶力の悪さにはあきれられるばかりである。

少なくともワタシは、小学生のときに「金環食」を観察した。昭和32年だったと思うのだが、念のため31年と33年の記事もしらべてみればいい。わずか50年前のことではないか。新聞記者というのは、あまり賢くないのがわれわれの間の定説なのだが、それにしてもひど過ぎる。少なくともボクよりも高齢の顧問か何かいるはずだし、今60歳くらいの方はぼんやりとでも覚えていてもいい。誰も気がつかないのだろうか。

このとき、「金環食」がいわば流行語になり、石川達三さんだったかが、この題名の小説を書いた。つまり、周囲は明るくはっきりしているから明朗であるが、内側は真っ暗で何が起きているのかまったくわからない。政治資金やら、裏献金やら、いろいろなことがおこなわれていても国民には皆目知らされることがない。政界の暗部をえがいたものである。

この文章は、5月21日までに掲載するつもりであったのが、遅れてしまった。しばらく、当日の話を書くと、ある老人は「あれは戦後すぐだったか？」と言い、またある老婦人は、「71年ぶりになるかね」とも言った。アナウンサーは、大阪、名古屋、東京の3つの大都市で一挙に見られるのが282年ぶりだ、と誤魔化していた。「大阪で」と言っていたではないか。マスコミだけではなく、日本人全体が記憶力が悪いのではないか！

「台風のときの最大風速はいくらくらいだろう」との子供の質問にも答えることができない。ボクがはっきり覚えているのは、第二室戸台風のと、「新聞に」「宮古島で風速 84メートル」という記事が載った。はしゃぐばかりではなく、せめて、温故知新。昔の人の記録をきちんとしらべてみたら？

2012.05.09.